

地域・在宅看護論Ⅱ実習

3年後期～4年前期 90時間（2単位）

1) 実習目的

保健・医療・福祉の地域ケアシステムにおける看護の果たす役割を理解し、地域で暮らす対象者の健康問題や生活課題をふまえた訪問看護活動の実際を学ぶ。

2) 実習目標

- (1) 在宅で療養する対象者の生活を理解する。
- (2) 在宅で療養する対象者に必要な看護を理解する。
- (3) 在宅で療養する対象者の看護を展開する視点を理解する。
- (4) 地域ケアシステムにおける他職種の連携・協働について理解する。
- (5) 対象者の自立と QOL 向上に向けた看護の役割を理解する。

3) 実習目標・到達目標・学習の視点

実習目標	到達目標	学習の視点	備考
1. 在宅で療養する対象者の生活を理解する。	1) 在宅療養者とその家族の発達段階とその課題が理解できる。 2) 対象の生活における習慣・価値観・役割・関係・環境等を知ることができる。 3) 在宅療養生活に対する対象の願いや思いを知ることができる。	療養者の発達段階、家族構成・キーパーソン・主な介護者、家族の発達段階、家族看護理論 生活の構成要素 生活上の価値観、習慣 地域での暮らし、住環境・地域環境 在宅療養者・介護者とのコミュニケーションの実践 訪問看護活動の見学	事前学習 同行訪問 カンファレンス 在宅1 在宅2 在宅3
2. 在宅で療養する対象に必要な看護を理解する。	1) 療養上問題となっている疾病や障害、治療や処置について説明できる。 2) 対象の現在の健康状態が説明できる。 3) 対象のセルフケア能力（ADL・IADL）が理解できる。 4) 家族の介護力、介護負担の状況が理解できる。 5) 対象の活用している社会資源を知ることができる。 6) 対象の全体像を理解することができる。	現病歴・既往歴・継続している治療や処置 継続している健康問題と現在の状況、顕在的・潜在的看護上の問題、介護者の関わり 対象のセルフケア能力（ADL・IADL）、介護状況との関連、生活行為への影響 介護内容・介護状況・介護力・関係性・介護者の思い。社会資源の内容・日程 社会資源活用についての思い 継続している健康問題・看護上の問題 介護力・社会資源・セルフケア能力と対象の生活に影響を及ぼす背景や関係	同行訪問 カンファレンス 在宅3 在宅4 在宅9

3. 在宅で療養する対象者の看護を展開する視点を理解する。	1) 在宅療養者や家族の訪問看護への思いや期待を知ることができる 2) 対象に実践されている看護の必要性について理解することができる。 3) 対象別に在宅看護過程の展開の視点を知らることができる。 4) 生活の場における援助の工夫を考え、対象に必要な看護の実践に参加することができる。 5) 訪問看護活動の実際を通して、訪問看護師の役割を理解することができる。	在宅看護過程の特徴 在宅看護のアセスメントの視点 訪問看護師のコミュニケーション方法の実際、意思決定を尊重した姿勢・態度、関わり方 生活の場における援助の工夫 訪問時の状況による療養者および家族への対応 家族アセスメントをふまえた家族支援 他機関、多職種との連携の取り方、方法 在宅でのリスクマネジメントの実際 療養生活上の安全の確保	同行訪問カンファレンス 在宅2 在宅3 在宅4 在宅5 在宅9
4. 地域ケアシステムにおける多職種との連携・協働が理解できる。	1) 在宅療養生活を支える社会資源の役割を理解することができる。 2) 地域ケアシステムにおける他職種との連携・協働の意義について述べるることができる。 3) 暮らしに密着した継続的な生活支援の必要性について考える。	多職種連携の場の参加 サービス担当者会議等 社会資源の内容、必要性、活用方法 他職種との連携の取り方 関係機関との連携 地域との連携・協働、職業的責任 信頼関係構築のための関係性づくり 訪問看護ステーション及び病院施設内看護の違い	事前学習同行訪問カンファレンス 在宅7 在宅8 在宅9
5. 対象者の自立とQOL向上に向けた看護の役割が理解できる	1) 在宅看護の特徴を述べることができる 2) 地域ケアシステムにおける対象の自立支援のための看護の役割を考える 3) 地域ケアシステムにおける対象のQOL向上にむけた在宅看護の役割を考察することができる。	訪問看護の活動内容・機能 生活の場における継続看護の特徴 自立支援とQOLの向上 自己決定・権利擁護	実習総括カンファレンス 在宅7 在宅8 在宅9

備考

実習時間 9:00～16:45 *昼休憩1時間含む

参考例) 午前 9:00～12:00 (3時間/4時間カウント)

昼食 12:00～13:00 (1時間)

午後 13:00～16:45 (3時間45分/5時間カウント)

基本形態 am9:00～12:00 (*4時間カウント) pm13:00～16:45 (*5時間カウント)

4) 実習展開例)

実習日	(カウント時間)	実習内容	実習記録	
1 日目	5 時間	学内 事前学習内容、基礎知識の確認 施設オリエンテーション→現地確認 訪問看護ステーション設置主体、理念 受け持ち利用者の決定 訪問看護の目的、必要な基礎情報の抽出	事前学習内容の追記 受け持ち利用者情報整理	
2 日目	9 時間	同行訪問（受け持ち利用者含む）	受け持ち訪問看護記録 医療処置を含む日常生活援助の実際	
3 日目	9 時間	同行訪問	訪問看護記録 対象の全体像の整理	
4 日目	9 時間	同行訪問	看護上の問題と必要な看護の方向性	
5 日目	5 時間	* 半日形態 同行訪問 各事業所の訪問計画に準じる	多職種連携の場の理解	
6 日目	9 時間	同行訪問	* 5～7日目で中間 カンファレンス	援助計画の検討
7 日目	9 時間	同行訪問		援助計画の追加、看護の実践
8 日目	9 時間	同行訪問	看護の実践・評価 援助計画の修正・追加	
9 日目	4 時間	* 半日形態 同行訪問 各事業所の訪問計画に準じる	多職種連携の場の理解	
10 日目	9 時間	同行訪問	看護の実践・評価・修正日常生活援助の実際	
11 日目	9 時間	同行訪問 最終臨地カンファレンス	対象の今後の課題	
12 日目	4 時間	* 学内まとめ 学内カンファレンス→ 臨地記録提出	学びの共有 自己の課題	

※受け持ち利用者は、週に複数回の訪問看護があり、学生の訪問を了解していただいた方を選定する。

※受け持ち以外の訪問看護実習は、訪問は1日2件を目安とし、学生の訪問を了解していただいた方を適宜選定する。

※対象者の訪問看護計画に沿って実施するため、訪問日程、援助内容は学生により異なる。

※他機関、多施設との連携・協働場面があれば同席、見学させていただく

（退院前訪問、かかりつけ医の受診、居宅介護支援事業所、サービス担当者会議等）

5) 事前学習 （実習開始までに必要な課題提出物）

- ①訪問看護における介護保険と医療保険の使い分け
- ②訪問看護ステーションの概要（法的根拠、設置運営基準含む）
- ③在宅看護過程の特徴（講義・演習ワーク資料の追加修正）

※枚数自由。提出期限は別途ガイダンスあり。科目担当教員へ提出。

6) 学内実習展開

ねらい 訪問看護ステーションでの訪問看護活動を通し、在宅療養者および家族に対する看護について学びを共有し、在宅看護の特徴をまとめる。

目標 ①在宅看護の特徴について、各自の体験（事例とそれぞれの看護の展開）と学びを発表することができる。

②抽出された特徴等を関連させ在宅看護の特徴をまとめる。

③共有された学びを通し、自己の実習を振り返り、自己の課題を明記する。

学内実習（実習 1 日目） 11 時～16 時 30 分 5 時間カウント

時間	スケジュール
(9:20～10:50)	事前実習準備
11 時～12 時 30 分	施設オリエンテーション 同行訪問マナー
13 時 20 分～14 時 50 分	受け持ち利用者基礎情報 課題整理
15 時～16 時 30 分	施設毎現地確認 * 電動自転車搬入 ご挨拶

学内実習（実習 12 日目） 13 時 20 分～16 時 30 分（2 コマ / 4 時間カウント）

時間	スケジュール
13:20～14:00	学びの共有 ラベルワークによる「在宅看護の特徴」のまとめ
14:00～15:00	全体カンファレンス 発表とまとめ (リスクマネジメントの視点、看護の展開、在宅看護の特徴など)
15:00～16:30	記録の整理 実習評価と自己の課題の確認 現地での記録提出 * 16 時 30 分頃到着を見越して学校を出る。

－実習上の注意点－

- ①訪問に適した身だしなみを整えること。服装は、白ポロシャツ・派手でない色または淡い色のジャージ・スニーカー。靴下は、白。髪は、束ねまとめる。派手な化粧はしない。マニキュアやアクセサリは禁止。名札は持参する。
- ②訪問に持参な物品（必要時学校指定のデスポ手袋、デスポエプロン等。手拭きタオル、靴下の替え。雨天用防寒具等）を収める訪問用小袋。（リュックや通学用のカバンは使用しない）
- ③訪問看護ステーション毎に移動手段や準備物品が異なるためオリエンテーション時に確認し、各自準備する。
- ④訪問には、実習記録を持ちださない。
- ⑤事業所の書類等を預かり訪問に出る場合は保管状況に細心の注意を払うこと。
- ⑥学校の自転車および電動自転車の借用時は、所定の手続きをし、各自が責任を持って点検（タイヤの空気圧など）、必要な整備を行い、返却すること。返却時は担当教員のチェックを受ける。
- ⑦雨天時は、雨合羽が必要となる。学校用を借用する場合は、所定の手続きを行うこと。最終返却前には水洗いし、乾燥させておくこと。

実習記録（学校指定用紙）及びその他の必要な記録

- ② 実習計画用紙：一日一日の学習目標、学びを記載する。
- ②在宅1―対象を理解するために必要な知識の抽出、整理
- ③在宅2－受け持ち療養者訪問記録（1）（2）（看護計画立案までの訪問記録）
- ④在宅3－情報の整理・解釈
- ⑤在宅4－全体像（中間カンファレンス資料）
- ⑥在宅5－看護計画（中間カンファレンス資料）
- ⑦在宅6－実施記録
- ⑧在宅7－多職種連携
- ⑨在宅8－総括（最終カンファレンス資料）
- ⑩在宅9－同行訪問見学記録
- ⑪学内実習 総括課題ワーク資料
- ⑫事前学習資料（事前学習課題）
- ⑬在宅看護論実習評価表
- ⑭安全に関する体験報告書

実習記録の提出

- ・実習記録は、所定の記録用紙を用いる（自己学習資料は別途）
- ・日々の記録物は、毎朝ファイリングし、訪問看護ステーションの指導者に提出する。
- ・実習最終日は、①～⑫実習記録用紙の順にファイリングし、各自訪問看護ステーションに提出する。⑬については実習最終日 朝指定時間に提出する。⑭は、随時提出しておく。
- ・事前学習も含め、すべての記録物が指定期間に提出がなければ評価対象外となり、実習成績および単位認定に影響する。
- ・安全に関する体験報告書については、実習中発生後速やかに報告し、担当教員に提出する。

実習評価

- 1) 実習評価は評価表に基づいて4段階評価（評価基準参照）とする。
- 2) 他者評価は実習指導者と協議の上、教員が行う。
- 3) 自己評価は6日目もしくは7日目（中間カンファレンス日）と最終日に学生自身が行い、ボールペンで記載する。

専門分野—2.
地域・在宅看護論実習

– 53 –

在宅1ー事前学習

※(受け持ち)訪問対象に必要な観察点と援助(根拠や必要性も含む)について書く。

事前学習

学籍番号

学生氏名

実 習 計 画		学籍番号		学生氏名	
月	本日の学習目標	1日の学び			
() 週目 月曜日		タイムスケジュール 学び			
() 週目 火曜日		タイムスケジュール 学び			
() 週目 水曜日		タイムスケジュール 学び			
() 週目 木曜日		タイムスケジュール 学び			
() 週目 金曜日		タイムスケジュール 学び			

(専) 京都中央看護保健健大 学校 看護保健学科

在宅2—受け持ち対象者訪問記録(1)	学籍番号	学生氏名
*訪問看護の開始時期と目的 *社会資源活用状況 *療養環境の特徴 *地域環境の特徴 現在の看護上の問題点 主な医療処置・日常生活援助内容 *主介護者() 現在の介護状況 受け持ち対象者訪問(初回訪問時) 訪問所要時間() 訪問時の状況 学びや感想		

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

在宅2—受け持ち対象者訪問記録(2)	学籍番号	学生氏名
受け持ち対象者訪問(2回目訪問時) 訪問時の状況 学びや感想		
受け持ち対象者訪問(3回目訪問時) 訪問時の状況 学びや感想		

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

在宅3—情報の整理・解釈

パターン	情報・整理	学籍番号	学生氏名	解説	推定問題と強み

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

在宅4—全体像

(日目) 学籍番号 学生氏名

--	--

全体像把握

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

在宅5ー看護計画

看護診断(NANDA 1)	学 籍 番 号	学 生 氏 名
ND 目 目	目標	看護成果 具体的指標
定義		☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
DOまたはRF	看護成果(期待する結果)	
RF		
OP/CP/EPに分けて書く		看護介入
		根拠

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

在宅6ー実施記録

ND	学 生 番 号	学 生 氏 名
DCまたはRF		
RF		
日 目	実施	結果・S対象の反応、 O:観察項目に基づくデータ
		評価 看護成果・成果指標に対して評価
		今後の計画

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

在宅介護実践		学籍番号	学生氏名
実習()日目 場面	体験を通して考えたこと、学んだこと		
・どのような趣旨、目的をもった事象か ・連携する職種、施設、機関について			

在宅8—総括		学籍番号	学生氏名
対象のプロフィール	看護診断（看護上の問題） ND DCまたはRF RF		
	看護の実践・結果・評価		
	療養上の継続課題		
	学び		

(専)京都中央看護保健高等学校 看護保健学科

